

## 令和3年度第1回幡多地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和3年9月16日（木） 15：00～17：00

場所：大月町農村環境改善センター

出席：委員27名中、21名が出席（代理出席2名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

- 1）幡多地域アクションプランの進捗状況等について
- 2）修正の案件について

（3）産業成長戦略について

- 1）観光振興の取り組みについて
- 2）移住促進の取り組みについて
- 3）関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

### ※意見交換概要

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）幡多地域アクションプランの進捗状況等について

（No.14 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進）

（中脇委員）

今まで一般向けでなかった宗田節を使用し、一般家庭で使用しやすい商品を開発してもらいたい。イメージとしては、味の素のほんだしだが、化学調味料等が入っておらず、一般家庭でも本格的な出汁を取れるような商品が良い。

（泥谷委員）

一般家庭でも使いやすいようにとの思いから「スープブロス」の商品開発を行った。スープブロス製造ラインの整備が完了し、今秋から本格的に製造・販売に取りかかる。ぜひ商品を試していただき、改良点等があれば、ご意見をいただきたい。

宗田節製造業では、自社で削り商品を展開する業者や宗田節削りなど体験観光に取り組む業者など、工夫する事業者も出てきたが、最盛期は約40軒あった節納屋が現在約15軒まで減っている。地域の伝統産業を守り、次世代に繋げていきたい。

2）修正の案件について

意見交換等、特になし。

### (3) 産業成長戦略について

#### 1) 観光振興の取り組みについて

(小松委員)

四国内の学校を中心に修学旅行の予約が入るが、感染拡大が進むとキャンセルになることが繰り返されている。黒潮町のスポーツ合宿も同様だが、キャンセルになった場合や実施後に後追いする仕組みを作る必要があると感じている。来年度以降、幡多6市町村には協力して仕組みを作っていただきたく、県にも支援をお願いしたい。

(山脇委員)

四万十市では年末に花火大会を予定しているが、コロナ禍でのイベント開催は各自治体悩みが多いと思われるため、自治体間で情報共有しながら進めていきたい。

(成田委員)

コロナの規制が緩和された時に、感染症対策が徹底されている地域が選ばれることになると思う。県全体で感染症対策にしっかり取り組んで、受入体制を整えてもらいたい。

(安田委員)

大月町では、観光客が戻りつつあると感じているが、事業者の中には廃業する者も出てきている。道の駅の改修計画もあり、レストランも閉店したため、町内で飲食できる場所がなく、お金の落ちる仕組みが無いのが課題となっている。

(森田委員)

黒潮町では、スポーツ合宿では7～8月に大きなキャンセルが出た。これを年末や春休みに取り返したいため、県やコンベンション協会にも支援をお願いしたい。

宿泊客は、主に高知市内や関西からくる観光客がメインであり、緊急事態宣言やまん延防止等の要請により宿泊・観光事業者には大きな影響が出ている。先が見えず不安な状況のため、中長期的な計画を立てて、来年4月以降の支援の方向性などをいち早く示してもらいたい。

(観光政策課 仙頭課長補佐)

修学旅行の受入については、誘致連絡協議会を設け、キャンセルの状況や、受入が単独で難しい場合には複数の地域で協力して受け入れるように情報共有の場を設けている。これまでに3回開催してきた。今後もインセンティブを含めてサポートしていきたい。

感染症対策については、観光客の旅行計画の立て方がコロナ前と変わり、まずはHP等で感染症対策ができて宿を徹底的にチェックして、宿泊先を決める動きが増えている。県だけでなく、それぞれの事業者でも情報発信をしっかりやっていただきたい。

4月以降の「リョーマの休日キャンペーン」の方向性については、食を中心にしていく計画としている。引き続き協力をよろしくをお願いしたい。

(福田委員)

飲食店の認証制度を行うこととなっているが、県は、客がワクチンパスポート（接種証明）を所持していれば、飲食店の営業時間を延ばす、アルコールを提供可能とするなどの取り組みを行うつもりはあるか。

また、会食について4人以内・2時間以内として県全体で規制されているが、飲食店への給付金は高知市、南国市、香美市のみである。この不平等はなぜか。

認証店でワクチン接種済みの客であれば、営業時間を伸ばしても構わないという形に持っていかないと飲食店はもたない。

(山下地域産業振興監)

地域本部に詳細な情報がない状態であるため、関係部署に確認後、回答させていただきたい。

(小松委員)

飲食店の認証制度は、小規模の店舗では対応できない。運用面で地域の実情に合わせ、ハードルを下げるなど柔軟に対応してもらいたい。

(地産地消・外商課 太田課長補佐)

担当課ではないが、分かる範囲で情報提供させていただく。認証制度については、チェックリストに示されている基準が難しいとの声があることは聞いている一方、認証機関のアドバイスを受けながら行えば、対応できるとの話も聞いているところ。難しい面もあると思うが、一度相談したうえで取り組みを進めていただきたい。

認証制度については、1,500店舗ほど申請があり、認証を取得したところは8月末時点で3店舗ほどと聞いている。

(福田委員)

認証店舗となっても遅い時間までアルコールの提供はできないのではないか。

(地産地消・外商課 太田課長補佐)

まん延防止措置については、国の基準においてアルコールの提供の規制がある。まん延防止が外れた後では、県において、地域の状況に応じて営業時間の短縮などを判断していくこととなる。感染対策と経済活動の両立は難しいが、常に意識しているところである。ご意見については関係部署に共有させていただく。

## 2) 移住促進の取り組みについて

意見交換等、特になし。

## 3) 関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて

意見交換等、特になし。

## 4) その他

(堀岡委員)

現在の産業振興計画には組み込まれていないが、先日、中平四万十市長と四万十町長が県を訪問し、お話しさせていただいた鮎の有効活用計画について、来年度の産業振興計画に取り入れていただきたい。あゆ有効活用計画検討会議が3月まで開催され、来年度に向けて方向性を決めることとなっており、鮎のブランド化などの計画を定めることとしている。

(井上地域支援企画員 (総括))

会では、黒笹氏が座長を務めていると伺っている。幡多地域本部として、どのような形で関係していけるか検討していく。

(以上)